

2026 (令和 8) 年度入学試験問題

世界史

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で30ページです。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
  - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。  
(機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
  - (2) 解答科目欄は、解答する科目を一つ選び科目の下のマーク欄を正確にマークすること。  
マークされていない場合または複数の科目にマークされている場合は、無効となります。
  - (3) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
  - (4) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
  - (5) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
  - (6) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の(例)のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

(例) ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。



- Ⅰ 以下のカミュとレジスタンスに関する文章を読んで、〔設問1〕～〔設問20〕に答えなさい。解答は解答欄 1 ～ 20 にマークしなさい。

実存主義文学の傑作『異邦人』(1942年)や、コロナ禍でよく読まれた『ペスト』(1947年)などの作品で著名なノーベル賞作家アルベール=カミュは、第二次世界大戦中のドイツ占領下のフランスにおいて、レジスタンス(対独抵抗運動)に従事していたことでも知られる。『異邦人』の成功によって名声を得ることになるカミュは、それ以前からレジスタンスに関わり、戦争末期には、地下新聞『コンバ(闘争)』の編集長に就任、フランスのレジスタンスにおける言論活動の中心を担うようになる。その過程で生み出された数々の論説は、念入りに彫琢を施された彼の文学作品とは違って、カミュの政治的主張を剥き出しのままに伝えるものである。そこから浮かび上がる文学と政治の緊張関係について考えてみたい。

カミュは、1913年フランスの植民地アルジェリアのモンドヴィに生まれた。生後まもなく父リュシアンは、第一次世界大戦の激戦マルヌの戦いに参加して負傷、ほどなくして死去する。その後カミュは、極度に受動的な母カトリーヌへの複雑な感情を育みながら(それはのちの作品内の寡黙な母親像に影を落としている)、サッカーに打ち込む快活さも見せる。しかし17歳で結核に冒されてサッカーの道を断念し、次第に作家として生きることを目指すようになって、いくつかの習作を残している。同時に政治意識や演劇への興味も芽生え始め、大学卒業後すぐに共産党へと入党、さらには戯曲としての代表作となる『カリギュラ』(1945年初演)の構想もすでに練り始めている。

折しも1930年代のヨーロッパでは、世界恐慌の余波の中で、イタリアのファシスト党やドイツのナチ党などのファシズム陣営が勢力を拡大していた。フランスでも、1934年にアクション=フランセーズなどの右翼団体が、時の内閣に対する示威行為を展開し、警官隊との衝突の中で流血をともなう大暴動へと発展する(「二月六日事件」)。これをファシズムによる議会制への脅威と捉えた左派勢力は、内部の対立を超えた連帯を呼びかけ、社会党・共産党・8が結集する人民戦線内閣を成立させる。当初カミュはこれに協調するが、共産党が反ファシ

ズム闘争を優先して、アルジェリアにおける植民地独立運動<sup>(10)</sup>を抑圧するに及んで、共産党から離れることになる。

人民戦線内閣は、しかし、それ以降ファシズムに対して有効な対策を講ずることができずに、その拡張を許していく。ナチ党率いるドイツは、1938年にはオーストリアを併合し、さらにはチェコスロヴァキアの 11 地方の割譲を要求する。これに対して人民戦線内閣は、イギリスとともに宥和政策をとり、ミュンヘン会議<sup>(12)</sup>においてドイツへの割譲を認める。第一次世界大戦の記憶が依然として鮮明であったフランスにおいて、戦争回避のこの政策は、世論の支持を得たものであった。だが、ドイツは翌年3月チェコスロヴァキア全土の占領に踏み切り、ソ連との不可侵条約の締結を経て、9月にはポーランドへと侵入、ここに至ってようやくイギリスとフランスはドイツへと宣戦布告し、第二次世界大戦が始まる。その後しばらく仏独両軍ともに戦端を開かない「奇妙な戦争」が続いたが、1940年6月にドイツ軍が一挙に西部戦線を攻略し、フランスは敗北する。かくしてフランスは、国土の北半がドイツによって、南仏が親独のヴィシー政権<sup>(13)</sup>によって統治される占領体制へと移行することとなる。

開戦前夜から、雑誌『アルジェリパブリカン』の執筆と編集に携わっていたカミュは、戦争開始後、結核の持病によって徴兵猶予となり、またその後の雑誌の発行停止を受けてパリに赴き、日刊紙『パリ-ソワール』で働き始める。これと並行して書き進められ、アルジェリアに戻ってから1941年に完成させたのが『異邦人』であった。この一人称小説は、主人公のムルソーが、母の死の知らせをなんの感傷もなしに受けるところから始まる。「どっちでもいい（自分にとって等価である）」が口癖の彼は、葬儀でも涙ひとつ見せず、翌日には愛してもいない女友達マリイと関係をもち、ふたりで娯楽映画<sup>(14)</sup>や水浴に興じ、名うてのならず者である隣人のレエモンとつるんで浜辺へと繰り出す。レエモンは、アラブ人<sup>(15)</sup>との揉め事を抱えており、それに巻き込まれたムルソーは、ひよんな偶然もあって、5発の銃弾を浴びせてアラブ人を殺害する。裁判にかけられた彼は、殺人行為そのもの以上に、母の死に対する冷淡さに見られる「心の空洞」を理由として、死刑を求刑される。世界の「無意味さ（不条理）」をそのまま掬い取ったかのようなこの小説は、占領下のパリで出版されるや熱狂的に受け入れられ、一躍

カミュは時代の寵児となる。

しかし1942年の11月から連合軍の北アフリカ上陸作戦が開始されると、フランス本国にいたカミュは、<sup>(16)</sup>アルジェリアの妻との連絡を絶たれ、孤立を味わう。その中で本国のレジスタンス組織と接触したカミュは、1943年にパリへと移住し、翌年から『コンバ』での積極的な言論活動を開始する。注目すべきはその論説の中で、『異邦人』のムルソーの精神が、ドイツの蛮行に重ねられていくことである。カミュはこう書いている。「きみたち（ドイツ人）は決してこの世界に意味のあることを信じなかった。そしてきみたちは、そこから、すべてが等価的であり、善悪は人の欲するところによって定まる、という考えを抽きだした」。すべてが等価であるとは、紛れもなくムルソーの論理であった。カミュはここで、ナチの世界観をこのムルソー的論理の所産として特徴づけたうえで、それに自分たちの「正義」を対置するのである。「私は、きみたちとは反対に、大地に忠実であるために正義をえらんだ。…この世界のうちにある何かの意味を持っていることを知っている。それは人間である。なぜなら人間こそ、意味を持つことを要求されている唯一の存在だからだ。…人間をこそ救わなければならない。…これが、われわれが戦っている理由である」。

ムルソーの、決してみづからを偽ることなく、現実を細部にわたってあるがままに見つめる冷徹な眼差しは、彼がいかに殺人者であろうとも、文学的には高い価値を認められうるものである。対照的に、裁判における検事の論告は、意味を信じないムルソーの「心の空洞」に、「社会をものみこみかねない一つの深淵」という過剰な意味を与え、事実としては犯していない「母殺し」、さらには別の裁判で審議されている他人の「父殺し」の罪までも象徴的にそれに負わせて断ずるほどに、度を越して政治的なものであった。ところが、レジスタンス闘争というまさしく政治的な局面にたち至るに及んで、カミュは、あたかもムルソーの罪について論告するこの情熱的な検事の振る舞いを借り受けるかのようにして、意味を信じる「人間」は、意味を信じない「ドイツ人」に対して武器を手に戦うべきである、そう宣言するのである。

おそらくは文学者としてのカミュ自身、そのような「人間」対「ドイツ人」という単純な対比の危うさに気づいていたのであろう。彼はその中和を図るかのよ

うに、この記事に「ドイツ人の友への手紙」という——ドイツ人を「敵」ではなく「友」とする——題名を与えてはいる。だが、この対比がよりはっきりと覆されるのは、やはり文学作品において、つまり同時期に執筆され戦後出版をみた小説『ペスト』においてである。同書では、ナチのある種の象徴としてペストが描かれるとともに、「人間」たるものの誠実さにおいてそれへの抵抗を担う医師リユーが主人公に据えられる。コロナ禍でしばしば模範として仰がれたのがこのリユーの姿勢であったことは、記憶に新しい。しかしこの小説の魅力はそれ以上に、リユーと連帯しながらもどこかしら彼に抗い、医師とは異なる立場を歩む人物たちにある。そのひとりランベールは、かつてスペイン戦争に人民戦線陣営として参加して味わった苦い経験から、「人間」という「観念」のために死んだり殺したりすることに「うんざり」したと述べる記者である。そして、もうひとりの友人タルーは、「社会の名において」罪人に死を要求する次席検事を父にもちながら、その父に対していいようのない拒絶感を覚えたみずからの過去を吐露する青年である。タルーは、たとえ世界から殺人をなくすためにこそ殺すことが避けられないというのが現実であったとしても、それでもなお、自分は殺人を理屈なしに拒否したいのだと訴える。ここには、世界の不条理さを生きるムルソーの論理の否定によってではなく、むしろその論理にとどまりながら、なおも殺し殺されないことは可能かという困難な問いが提示されている。

その答えの一端は『ペスト』の最後に示唆される。リユーはランベールやタルーとは友情を結びながら、ただひとりどうしても擁護することのできない人物を挙げている。すなわちペストの蔓延を内心喜ぶ——ナチ占領下の「対独協力者」を思わせる——コタールである。彼はペストの収束に浮かれる世間に向けて、錯乱して銃弾を発砲しているところを警察に見咎められ、激しく殴打される。史実としても、解放後のフランスでは、対独協力者の多くが報復として殺害され、文壇でも対独協力作家の「粛清」の是非が論争を生んでいた。カミュ自身は解放直後には粛清やむなしの立場を取るも、赦しを唱えるカトリック作家モーリヤックとの論戦を経て、対独協力作家ブラジャックの助命嘆願に署名している。この煮え切らない態度をなぞるかのようにリユーは、警察に殴られるコタールを眼にして、胸のすく思いをするどころか、かえってその殴打の「鈍い音」が

付きまとして離れず、「罪人について考えることは、死者について考えるよりもつらい」のだとの感慨を記すのである。この言葉は多様な解釈を許すだろう。いずれにしてもカミュの政治的論説を背景にしてその小説を読むとき、文学にはどれほどに政治立場へと回収されきらない余剰が満ちているかを実感させられる。

\*引用は以下に拠るが、一部変更した。引用中の「…」および丸括弧内はそれぞれ引用者による省略・補足であり、ルビも引用者が付記した。カミュ『異邦人』窪田啓作訳、新潮文庫、1954年／カミュ『ドイツ人の友への手紙』白井浩司訳『カミュ全集3』新潮社、1972年／カミュ『ペスト』三野博司訳、岩波文庫、2021年。

〔設問1〕 下線部(1)に関連して、実存主義の思想を展開した人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **1** に**マーク**しなさい。

- ①マティス    ②レヴィ=ストロース    ③デューイ    ④サルトル  
⑤レーニン

〔設問2〕 下線部(2)に関連して、アッパース家のカリフを首都で擁立し、メッカとメディナを保護下に置いて、イスラーム世界の盟主として振る舞ったある王朝は、14世紀半ば以降、ペストの流行を一因とする人口の激減によって社会の活力を失っていった。この王朝はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **2** に**マーク**しなさい。

- ①マムルーク朝    ②アイユーブ朝    ③ナスル朝    ④セルジューク朝  
⑤ホラズム=シャー朝

〔設問3〕 下線部(3)に関連して、フランスとその植民地アルジェリアとの関係についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **3** にマークしなさい。

- ①フランスでは、国王シャルル10世が貴族を保護して反動的な政治を行なう一方、1830年には国民の不満を逸らすためにアルジェリア出兵を行なった。
- ②1880年代に、フランスはアルジェリアを拠点のひとつとして、アフリカの北西部から南端へと縦断する政策を進めた。
- ③1954年に結成されたアルジェリアの民族解放戦線は、反仏抵抗運動を展開し、フランス側が制圧を試みてアルジェリア戦争が始まった。
- ④1962年に、フランスはド=ゴール大統領の主導のもと、アルジェリアの独立を認めた。

〔設問4〕 下線部(4)に関連して、マルヌの戦いを含む第一次世界大戦の戦闘を古い順に並べたものとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄 **4** にマークしなさい。

- ①マルヌの戦い → タンネンベルクの戦い → ヴェルダンの戦い
- ②マルヌの戦い → ヴェルダンの戦い → タンネンベルクの戦い
- ③タンネンベルクの戦い → マルヌの戦い → ヴェルダンの戦い
- ④タンネンベルクの戦い → ヴェルダンの戦い → マルヌの戦い
- ⑤ヴェルダンの戦い → タンネンベルクの戦い → マルヌの戦い
- ⑥ヴェルダンの戦い → マルヌの戦い → タンネンベルクの戦い

〔設問5〕 下線部(5)に関連して、カリギュラは暴君として知られる古代ローマ帝国の皇帝であるが、同じく暴君として知られる皇帝にネロがいる。ネロの師で、最終的に自死を命じられたストア派の人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **5** にマークしなさい。

- ①ルクレティウス    ②セネカ    ③ウェルギリウス    ④キケロ
- ⑤エピクテトス

〔設問6〕 下線部(6)に関連して、ファシスト党についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄**  にマークしなさい。

- ①1922年に、ファシスト党は、「ローマ進軍」と称する大示威行為を展開した。
- ②1922年に、ファシスト党の党首は、国王から首相に任命され、政権を獲得した。
- ③1926年に、ファシスト党は、一党独裁体制を確立し、国民の余暇活動を厳しく制限した。
- ④1929年に、ファシスト党政権は、ローマ教皇庁とラテラノ条約を結んで、ヴァチカン市国の独立を認めた。

〔設問7〕 下線部(7)に関連して、フランスにおける左翼陣営と右翼陣営の対立が先鋭化した出来事としてドレフュス事件がある。この事件についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄**  にマークしなさい。

- ①対独強硬派のブーランジェ將軍によって、ユダヤ系大尉ドレフュスがスパイとして告発された。
- ②作家ゾラが、ドレフュス擁護の立場から「私は弾劾する」と題する大統領宛ての公開質問状を公表した。
- ③この事件を契機として、ヘルツルは、パレスチナでのユダヤ人国家の設立を目指すシオニズム運動を開始した。
- ④この事件による社会の分裂を背景として、フランスは戦争回避を望み、ファシヨダ事件で譲歩した。

〔設問8〕 空欄  に入る政党の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄**  にマークしなさい。

- ①民主党    ②共和党    ③急進社会党    ④立憲民主党    ⑤労働党

[設問9] 下線部(9)に関連して、人民戦線についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **9** にマークしなさい。

- ①人民戦線の方式は、1935年のコミンテルン第7回大会で提唱された。
- ②フランスの人民戦線内閣は、大規模な公共事業を実施し、有給休暇法などを制定した。
- ③スペインでは1936年の選挙で人民戦線政府が誕生したが、これに対してフランコ将軍がモロッコから反乱軍を率いて攻めこんだ。
- ④ソ連は、反乱軍と戦うスペインの人民戦線政府に対して援助を行なわなかった。

[設問10] 下線部(10)に関連して、アフリカ大陸における植民地は、植民地独立運動の結果、第二次世界大戦後に次々と独立を果たしていくことになるが、17か国もの独立が達成された年を「アフリカの年」と呼ぶ。この17か国に含まれない国はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **10** にマークしなさい。

- ①ナイジェリア    ②チュニジア    ③カメルーン    ④モーリタニア
- ⑤ソマリア

[設問11] 空欄 **11** に入る地域の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **11** にマークしなさい。

- ①ザール    ②フィウメ    ③ズデーテン    ④メーレン    ⑤ペーメン

[設問12] 下線部(12)に関連して、ミュンヘン会議に参加した英仏首相の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄 **12** にマークしなさい。

- ①ジョゼフ=チェンバレン — グラディエ
- ②ジョゼフ=チェンバレン — ブルム
- ③ジョゼフ=チェンバレン — クレマンソー
- ④ネヴィル=チェンバレン — グラディエ
- ⑤ネヴィル=チェンバレン — ブルム
- ⑥ネヴィル=チェンバレン — クレマンソー

[設問13] 下線部(13)に関連して、ヴィシー政権は、対独敗戦の原因をフランス国民の道徳的脆弱さに求め、カトリック教育による道徳を復活させるべく、公教育における政教分離の原則を否定した。この原則を定めた政教分離法がフランスで制定されたのと同じ年に起きた出来事はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **13** にマークしなさい。

- ①英仏協商の締結    ②露仏同盟の締結    ③三国協商の締結
- ④第1次モロッコ事件の発生    ⑤第2次モロッコ事件の発生

[設問14] 下線部(14)に関連して、映画はリュミエール兄弟によって初めて上演されたが、映画の技術そのものはある人物によって発明されたキネトスコープに基づいている。この人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **14** にマークしなさい。

- ①マルコーニ    ②モールス    ③ベル    ④エディソン
- ⑤チャップリン

[設問15] 下線部(15)に関連して、中東アラブ地域の出来事についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 15** にマークしなさい。

- ①第一次世界大戦中、イギリスは、フサイン-マクマホン協定によってアラブ人に独立を約束していたが、守られなかった。
- ②アラブ民族主義の高まりを受けて、1945年にアラブ人の独立と連帯を目指すアラブ連盟が発足した。
- ③第二次世界大戦後、イギリスはアラブ地域の一部であったパレスティナを、ユダヤ人国家とアラブ人国家に分割する案を提案したが、アラブ側が拒否した。
- ④1948年、イスラエルの一方的な建国宣言に対して、アラブ諸国は出兵し、戦争が始まった。

[設問16] 下線部(16)に関連して、この作戦やその後のノルマンディー上陸作戦を率い、のちにアメリカ大統領にもなるアイゼンハワーの大統領在任時の事績として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 16** にマークしなさい。

- ①朝鮮戦争の休戦      ②部分的核実験禁止条約の締結
- ③原子力発電の開発の本格化      ④フルシチョフとの会談
- ⑤キューバとの断交

[設問17] 下線部(17)に関連して、古代の歴史家トゥキディデスは、ある戦争を題材にして、正義とは力をもって勝利した者が自由に決めるものであるという現実を活写している。トゥキディデスが主著『歴史』において記述した戦争はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 17** にマークしなさい。

- ①トロイア戦争      ②ペルシア戦争      ③ペロポネソス戦争
- ④ポエニ戦争      ⑤マカベア戦争

[設問18] 下線部(18)に関連して、スペイン戦争に義勇兵として参加した文化人の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **18** にマークしなさい。

- ①スタインベック    ②ピカソ    ③トーマス=マン    ④ヘミングウェイ  
⑤ソルジェニーツィン

[設問19] 下線部(19)に関連して、文化的な対独協力の一環として奨励されたのが、対イギリスの百年戦争を勝利へと導いたとされるジャンヌ=ダルクの史劇の上演であった。百年戦争についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **19** にマークしなさい。

- ①この戦争は、イギリスのエドワード黒太子がフランス王位の継承権を主張してフランスに侵攻したことで始まった。  
②フランスでは、この戦争の末期に、大規模な農民反乱であるジャックリーの乱が起きた。  
③イギリスは、この戦争の後も、大陸のカレーを維持したが、16世紀のカトールカンブレジ条約でフランスに返還した。  
④フランスでは、この戦争の結果、諸侯・騎士が地位を高め、中央集権化の進展を遅らせることになった。

[設問20] 下線部(20)に関連して、カトリックについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **20** にマークしなさい。

- ① 6世紀末の教皇グレゴリウス1世以来、ローマ-カトリック教会はゲルマン人への布教を熱心に行なった。
- ② 1054年に、ローマ-カトリック教会は、ギリシア正教会と互いに破門して分離した。
- ③ 16世紀には、プロテスタントに対抗するカトリック改革において、宗教裁判が禁止された。
- ④ イギリスでは、1829年のカトリック教徒解放法によって、カトリック教徒も公職につけることになった。

- II 以下の前近代中国における農業生産の展開に関する文章を読んで、〔設問21〕～〔設問35〕に答えなさい。解答は、**解答欄** **21** ～ **35** にマークしなさい。

農業は自然環境に大きく左右される。そのことを踏まえてここでは中国における農耕社会の展開を振り返ることとする。

前3世紀後半、秦の始皇帝 <sup>(21)</sup> によつてはじめて統一されたことで、今日にいう中国が存在することになる。しかしそれは単一の社会の形成を意味せず、中国にはさまざまな地域に個性的な社会が存在した。地域区分することが中国史研究においても重要な研究視角となっている。その区分の一つに自然条件 <sup>(22)</sup> によるものがある。それは、淮河と秦嶺山脈を東西の線として南北に区分し、その北を華北、南を華中、また華中の南に東西にはしる南嶺山脈を境にして、その南を華南 <sup>(23)</sup> とするものである。この区分は自然条件に大きく左右される農業生産のうえにもあらわれる。たとえば穀物生産でいえば、華北は、黄河とその支流の流域に堆積された黄土地帯で、そこでは主として畑作によってアワなどの穀物が生産され、長江流域の華中、亜熱帯気候の華南では、イネの栽培（水稲栽培）が展開されるという特徴を指摘することができる。以下では華北と華中の農業生産の進展の歴史をたどってみよう。

まず華北の黄土地帯をみると、現在のところ前6000年ころに農耕が開始 <sup>(24)</sup> されたと考えられている。この時期は中国史の時代区分でいえば、新石器時代に属する。前2000年ころまで続くこの段階での農耕は、黄河およびその支流の洪水・氾濫を避けるように、これら河川に沿った小高い丘に、つまりはそれらの河川が形成した河岸段丘に農耕地をつくるといったものであった。ここでは、木製・石製のスキなどを使ってアワ・キビなどを栽培していた。したがってこの時期の農業生産は、いまだ黄河やその支流の氾濫原に農耕地を展開するに至っていない段階であるということもできる。その点は、たとえばナイル河畔 <sup>(25)</sup> で農耕を展開した古代エジプト文明 <sup>(26)</sup> と異なる黄河流域におこった文明の一つの特徴となっている。

中国農業史において、春秋・戦国時代 <sup>(27)</sup> は第一の大転換期のはじまりとなった。とくに前5～前3世紀ごろ、中国が戦国時代という戦乱のなか、各地域の政治権力が生き残りをかけて「富国強兵」政策をとり、農業生産の上昇をはかったこと

が変革の原因のひとつとなっていた。また当時、鉄製農具の登場、および牛などの畜力を農耕に使用する農法（牛耕）の出現も、富国強兵政策を推進させる技術的根拠を与えていた。鉄製農具は、農地を深く耕し単位面積当たりの収穫量を増大させることを可能とした。これを政治権力が活用して、農村に鉄製農具を普及させることをめざした。また牛耕は、開墾、すなわち農耕地の拡大にも威力を発揮したため、政治権力は河川の水を引き込む大規模な用水路の建設などを推進した。たとえば、のちに始皇帝となる秦王政の時代に大規模に造営された鄭国渠によって農耕地がおおいに拡大したとされるのは、その代表的な例である。その一方で、それまで避けてきた大河の氾濫原を農耕地とする開墾も行なわれ各地域の「富国」に貢献した。しかしそれは、同時に洪水の危険をも引き受けることになった。これ以降、洪水との戦いと被災の長い歴史を中国は記録することになる。<sup>(28)</sup>

この農業上の発展にともなって、農村の状況も変化していった。農業経営が集落単位から徐々に小さくなり、集落内部で階級分化が進行しはじめた。前漢半ばころより、貧農を雇用したり、奴婢を使役したりする豪族が出現すると、国家権力は土地に対するさまざまな支配権を行使する政策をとるようになる。前漢時代末期に、失敗には終わったものの哀帝の発布した限田策は、豪族たちの大土地所有を制限する法であった。その後の魏晉時代の占田・課田制、さらには北魏の均田制なども、この土地所有制限政策の延長線上にあったといえよう。<sup>(29)</sup>

華北の乾燥した気候に順応するのは、天水（雨水）を利用する農法（華北乾地農法とよばれる）であり、この農法は北朝期には完成したといわれている。これを体系的に記述し、後の農書にも影響を与えたものに、北魏の賈思勰の著わした『齊民要術』がある。この華北の農法は、唐代中期ころより一層の発展をみせた。たとえば夏季にアワなどの穀物を栽培・収穫し、冬季には小麦を、次年の夏季に豆類をそれぞれ栽培・収穫し、秋以降の半年を休閑するという二年三毛作の普及などがそれである。これらの農法の普及による生産力の上昇は、階級分化の拡大を抑止する性格をもっていた均田制を崩壊へと導き、宋代に到って荘園などを発展させる起因となった。

華中（江南）における水稻栽培は、現在のところ浙江省の河姆渡遺跡の発見に<sup>(32)</sup>

よって、華北とほぼ同じころに存在していたと考えられている。漢代以降の文献には、雑草を火で焼き水に没して枯らせる「火耕水耨<sup>かこうすいどう</sup>」という農法が記されている。これが水稲栽培の農法の記述であるとの解釈もあるが、華北中心に成立した王朝権力側が、華北とは異なった江南の農法を「遅れた」ものとして表現したものに過ぎないとも考えられている。

唐代末期から宋代にかけては、中国農業史における第二の大転換期のはじまりとなった。それを実現したのは江南の水稲栽培の発展である。唐代には「火耕水耨」に代わって田植えがこの地で普及し、収穫量を急速に増加させた。さらに江南デルタ地帯においても、堤防を築き水路をめぐらせて低地を干拓する方法で圍田・圩田といった新田の開発も進展した。これに日照りに強く丈夫な早稲の品種である占城稻がベトナム南部よりもたらされ、江南の地が中国における農業生産の先進地域となる。こうして展開される莊園経営やその担い手である新興地主層<sup>(33)</sup><sup>(34)</sup>の確立は、中国社会の新たな展開を促すことになる。

明代中期以降、長江下流域の農業生産はいちだんと発展を遂げ、また唐代や宋代<sup>(35)</sup>にはじまる茶・漆などの商品作物の栽培も一層盛んになった。とくに衣料用の作物として棉花の栽培が本格化し都市を中心に展開されていた織物業が農村にも拡がっていった。また古代より海外にも知られた絹織物も発展した。

以上の概観からも、中国における農業技術の発達と農業生産力の上昇は、農村における階層分化を進展させ、社会構造を変革させてきたことが理解されよう。すなわち農業生産力の上昇は、主たる経営単位を集落から豪族層へ（第一の転換）、また豪族層から貴族層への発展を経て、さらにそれを地主層へと転換させていった（第二の転換）。こうした農村の社会構造の変革に対応できない王朝は倒され、この変革に巧みに対応する新たな王朝を樹立させてきた。この点に、個性的な特徴をもつ多地域を2000年余という長期にわたって皇帝が支配する制度を存続させてきたひとつの要因があると考えられるのではないだろうか。

[設問21] 下線部(21)に関連して、秦の始皇帝についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **21** にマークしなさい。

- ①始皇帝は、商鞅を任用して軍隊の強化をはかった。
- ②始皇帝は秦の歴史書を除いたすべての書物を焼却した。
- ③始皇帝は、秦王即位時に存続していた3国を滅ぼして統一を完成させた。
- ④始皇帝陵東方に、等身大の兵馬俑が軍隊の組織を模して配置された。

[設問22] 下線部(22)に関連して、自然環境の変化は人類の歴史を大きく転換させる。たとえば1万年ほど前に氷河期が終わるとユーラシアなどの各地で農業・牧畜がはじまり、旧石器時代から新石器時代へと社会を転換していった。旧石器時代についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **22** にマークしなさい。

- ①洞穴絵画が描かれた。
- ②道具として打製石器の使用が広まった。
- ③彩文土器が作られた。
- ④骨角器が狩猟具や装身具などとして使われた。

[設問23] 下線部(23)に関連して、華南の南には、中国、インドなどの文化の影響を受けて歴史を展開していった東南アジアの地域が存在する。この地域の古代に関する記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **23** にマークしなさい。

- ①メコン川下流域に建国された扶南のオケオから、古代ローマ時代の貨幣が出土したことで広範囲の交易が明らかとなった。
- ②メコン川中流域でおこったカンボジアには、ポロブドゥール仏教施設が建造された。
- ③ドンソン文化の特徴である銅鼓は、中国南部から東南アジア一帯で発見され、この地域間の交易を物語る。
- ④ベトナム中部に建国されたチャンパーは林邑ともよばれ、東シナ海域に交易ネットワークを広げた。

[設問24] 下線部(24)に関連して、農業の発展によって人類は古代文明の時代を迎えた。古代文明についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **24** にマークしなさい。

- ①メソポタミアでは灌漑農法がはじまり、やがて権力の仕組みが生まれ、各地に都市が誕生した。
- ②インダス川流域のモエンジョーダーロからは、穀物倉や沐浴場を備えたレンガ造りの都市遺跡が発見された。
- ③黄河流域におこった仰韶文化では、表面が研磨され薄手の良質土器である黒陶が代表的な遺物となっている。
- ④メキシコ湾岸に成立したオルメカ文明では、ジャガー崇拝や巨石人頭像がみられた。

〔設問25〕 下線部(25)に関連して、毎年の氾濫による増減水を利用してナイル川の河岸は沃土となり、農業生産が増大した。これがエジプト社会を文明へと導いた一因となった。これを「エジプトはナイルのたまもの」と表現した人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄**

**25** にマークしなさい。

- ①ホメロス    ②プラトン    ③アリストテレス    ④ヘロドトス  
⑤ヘシオドス

〔設問26〕 下線部(26)に関連して、古代エジプト文明についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄**

**26** にマークしなさい。

- ①メンフィスに都をおいた古王国時代、遊牧民のヒクソスが流入し国内が混乱した。  
②テーベに都をおいた中王国時代、クフ王などがピラミッドを造営した。  
③アメンホテプ4世は、神官の権力を抑えるためにアマルナに都を移した。  
④ピラミッド内部の壁面には、死者の幸福を祈る「死者の書」が描かれている。

〔設問27〕 下線部(27)に関連して、春秋・戦国時代についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄**

**27** にマークしなさい。

- ①春秋時代には、周王を助けるための同盟を主導する七覇とよばれた君主（覇者）がつぎつぎに登場した。  
②各国ではとくに戦国時代になって官僚制度を確立させ、農民や商工業者を直接支配しようとした。  
③春秋時代と戦国時代の区分は、名目的存在であった周が鎬京から洛邑へと遷都したことを画期としている。  
④諸子百家とよばれる諸学派のなかで、孔子は法家との論争を通じて儒学を体系化させた。

[設問28] 下線部(28)に関連して、自然現象は天の意志のあらわれで、くりかえされる洪水とその甚大な被害は皇帝の悪政と連動していて、天がその悪政を感じとっておこしたものとする「天人相関」説（あるいは災異説）を主張した人物の名はどれか。彼は五経博士の設置を皇帝に進言したことで知られる。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **28** にマークしなさい。

- ①董仲舒    ②司馬光    ③荀子    ④孔穎達    ⑤朱熹

[設問29] 下線部(29)に関連して、この時代の出来事として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **29** にマークしなさい。

- ①九品中正制度が採用された。  
②奴国に金印が授与された。  
③華北に移住・服属していた南匈奴が自立した。  
④八王の乱が勃発した。

[設問30] 下線部(30)に関連して、農書の成立は、中国を中心とした東アジア世界のみならず、西アジア、ヨーロッパなどでも確認できる。また農書とともに、季節と農作業との関係を記した農事暦も世界各地に存在した。人々の生活と深くかかわっている暦についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 30** にマークしなさい。

- ①授時暦は、元の時代に郭守敬らがイスラームの天文学を取り入れて作ったもので、江戸時代に作成された貞享暦はこれに基づいている。
- ②ヒジュラ暦（イスラーム暦）は、ムハンマドが迫害からメッカに逃れ、ムスリムの共同体を建設した年を紀元とする暦であり、太陰暦に基づいている。
- ③グレゴリウス暦は、現在でもひろく用いられている太陽暦で、ユリウス暦に修正を施して作られた。
- ④崇禎暦書は、明末に徐光啓らがイエズス会の宣教師の協力のもと、西洋暦法を取り入れて編まれた。

[設問31] 下線部(31)に関連して、この時代の出来事として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 31** にマークしなさい。

- ①戸籍の作成や徴税などを目的として三長制が実施された。
- ②寇謙之が道教教団を組織し、仏教と対峙した。
- ③王朝が東西に分裂するきっかけとなったとされる六鎮の乱がおこった。
- ④のちに書聖と称される王羲之が活躍した。

[設問32] 下線部(32)に関連して、江南の開発は三国時代の呉の建国が一つの契機となっている。この王朝を滅ぼした王朝の都はどこか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 32** にマークしなさい。

- ①成都    ②長安    ③平城    ④洛陽    ⑤建業

[設問33] 下線部(33)に関連して、唐末から宋代にかけて中国の経済の中心が移動したことは、中国史における大きな変革とも重なる。唐末から宋代についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **33** にマークしなさい。

- ①宋代の磁器は産地により多様な特色をもち、なかでも白磁では北宋の定窯、青磁では南宋の龍泉窯が有名となった。
- ②安徽省出身の徽州商人が、山西商人を圧倒して全国的な巨大財閥を築き、塩業を中心に活躍する一方で、中国の学問・芸術の繁栄を支援した。
- ③水上交通の要衝である開封に都を建造した宋代における都市の賑わいは、北宋末に描かれた「清明上河図」によくあらわされている。
- ④中国農業の中心が、長江下流域の稲作地帯に移動したことを示す言葉に「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」がある。

[設問34] 下線部(34)に関連して、均田制の崩壊と新興地主層の確立という歴史的な転換についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **34** にマークしなさい。

- ①新興地主層のもとで佃戸となった者の多くは、地主との間に奴隸のような身分制的な隷属関係をとる存在であった。
- ②新興地主層で官僚を輩出した家は、名誉と恩典が授けられ、広大な荘園を経営するなどして富を築いていった。
- ③新興地主層は、財政再建のために実施した一条鞭法という租税の銀納制度に関連して、銀貨で土地を買い集めたものたちであった。
- ④唐代を支えていた貴族階層の家は形勢戸とよばれ、新興地主層が抬頭してからも科挙を手段として多くの官吏を輩出し続けた。

〔設問35〕 下線部(35)に関連して、商品作物の隆盛は、商業の発達と密接な関係がある。商業の発展についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **35** にマークしなさい。

- ①唐代には、会子とよばれる史上はじめての紙幣があらわれ、これが貨幣経済の進展の契機となった。
- ②宋代では、銀貨や交鈔が濫発され、経済混乱の原因となって農民反乱を引き起こした。
- ③元代には、草市とよばれた交易場が都市内に出現し、そこから小都市としての鎮へと発展するものも多く登場した。
- ④明代には、大都市に同郷出身者や同業者間の扶助・親睦をはかるために会館や公所とよばれる施設が置かれた。

- Ⅲ 以下の文章は、森田安一の論考「十字軍から宗教改革へー贖宥をキーワードとして」の抜粋である。この文章を読んで、〔設問36〕～〔設問50〕に答えなさい。解答は解答欄 **36** ～ **50** にマークしなさい。なお、文章の引用にあたり、一部を改変している。また〔 〕は引用者による省略である。

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

出典：森田安一「十字軍から宗教改革へー贖宥をキーワードとして」『史料から考える世界史20講』岩波書店，2014年，47～54頁

〔設問36〕 下線部(36)に関連して，セルジューク朝についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び，解答欄

**36** にマークしなさい。

- ①創始者トゥグリル=ベクは，ブワイフ朝を追ってバグダードに入城し，アッバース朝カリフからシャーの地位を認められた。
- ②セルジューク朝の一族はアナトリアを西進し，ホラズム朝を建てたことでこの地にイスラーム文化が根付き，後のオスマン帝国成立の下地となった。
- ③セルジューク朝のmamuluk出身者がトゥールーン朝を作り上げた。
- ④官僚にはイラン系の人々を登用し，宮廷ではペルシア語を用いた。

〔設問37〕 下線部(37)に関連して，中世キリスト教の3大巡礼地のひとつとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び，解答欄 **37** にマークしなさい。

- ①アッシジ    ②コルドバ    ③コンスタンティノーブル
- ④サンティアゴ=デ=コンポステラ    ⑤パリ

〔設問38〕 空欄 **38** に入る十字軍国家はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び，解答欄 **38** にマークしなさい。

- ①アルメニア王国    ②レオン王国    ③エデッサ伯国    ④ナバラ王国
- ⑤ユダ王国

〔設問39〕 空欄 **39** に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の

①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **39** にマークしなさい。

- ①ベルナルドゥス    ②アウグスティヌス    ③ベネディクトゥス  
④アベラール    ⑤アンセルムス

〔設問40〕 下線部(40)に関連して、この人物についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **40** にマークしなさい。

- ①クルド系軍人であった。  
②シーア派のアイユーブ朝を創始した。  
③ファーティマ朝では宰相として活躍した。  
④その武勇と寛容さは、ヨーロッパ側からも賞賛された。

〔設問41〕 空欄 **41** に関連して、この人物は古代ローマ復興を目指して積極的なイタリア政策を展開した。この君主の異名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **41** にマークしなさい。

- ①赤髭王    ②尊厳王    ③聖王    ④獅子心王    ⑤雷帝

〔設問42〕 下線部(42)に関連して、この人物の事績はどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **42** にマークしなさい。

- ①大司教の人事をめぐって教皇と対立し、破門を宣告された。  
②ノルマンディーなどをイングランド王から奪い、王権発展の基礎を固めた。  
③アイユーブ朝のスルタンと交渉して、イエルサレムを一時的に回復し、キリスト教徒による聖地巡礼をふたたび可能にした。  
④フランチェスコ会修道士のルブルックをモンゴルに派遣した。

[設問43] 下線部(43)に関連して、十字軍以降のレヴァント貿易（東方貿易）およびその影響についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 43** にマークしなさい。

- ①東方貿易で盛えたジェノヴァ出身のコロンブスは、トスカネリの地球球体説を受け入れ、大西洋航海に出発した。
- ②ヴェネツィアは「アドリア海の女王」とも呼ばれ、東方貿易の主要勢力として成長した。
- ③毛織物業や金融業で栄えたフィレンツェでは、メディチ家などの富裕な市民が芸術家や学者を保護し、いち早くルネサンスが開いた。
- ④カーリミー商人とよばれるムスリム商人集団は、バクダードを拠点としてイタリア商人と取引を行なった。

[設問44] 下線部(44)に関連して、ビザンツ皇帝家門は脱出し、アナトリアに亡命国家を建国したが、この国の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 44** にマークしなさい。

- ①ニカイア（ニケーア）帝国    ②トリポリ伯国    ③アンティオキア侯国
- ④ワラキア公国    ⑤モルダヴィア公国

[設問45] 下線部(45)に関連して、その例として十字軍側から異端とみなされた人々が挙げられるが、13世紀に討伐のために十字軍が結成された南フランスの異端はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄 45** にマークしなさい。

- ①ネストリウス派    ②アリウス派    ③カタリ派    ④アタナシウス派
- ⑤パリサイ派

[設問46] 下線部(46)に関連して、教皇派と皇帝派の対立は、11世紀の叙任権闘争にまで遡る。叙任権闘争に至るまでの聖俗の動きについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **46** にマークしなさい。

- ①領主間の私闘で教会財産が侵害されたり、農民が危害を加えられたりするのを防ぐために、司教を中心に「神の平和」運動がおきた。
- ②教皇は、教皇座の高位聖職者である枢機卿によって選出されることが定められた。
- ③聖職者の妻帯や聖職売買といった教会の腐敗に対し、11世紀には托鉢修道会を中心として改革運動が進展した。
- ④カロリング朝以降、世俗の君主は大司教や修道院長などを任命する権利を有していたが、教皇グレゴリウス7世はそれを禁止した。

[設問47] 下線部(47)に関連して、シチリア島および南イタリア地方についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **47** にマークしなさい。

- ①ノルマン人がイスラーム勢力を圧倒し、1130年にシチリア島と南イタリアを領するシチリア王国を建国した。
- ②シチリア王の娘を母にもつフリードリヒ2世のもとで、シチリア王国は神聖ローマ帝国に統合された。
- ③千人隊を率いたガリバルディが両シチリア王国を占領し、サルデーニャ国王に献上することで、両シチリア王国が併合された。
- ④シチリア王国の都市トレドでは、ビザンツ帝国やイスラーム世界に継承された古代ギリシア・ローマの古典がアラビア語からラテン語に翻訳され、12世紀ルネサンスの中心地となった。

[設問48] 下線部(48)に関連して、アッコンを陥落させたマムルーク朝第5代スルタンの名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **48** にマークしなさい。

- ①フレグ    ②バイバルス    ③マンスール    ④バトゥ  
⑤ハールーン=アッラシード

[設問49] 下線部(49)に関連して、この人物は諸身分から構成される身分制議会を設立した。その身分制議会についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **49** にマークしなさい。

- ①ルイ16世はこの議会を1789年に招集・開催し、人権宣言が採択された。  
②ルイ13世の治世下では、この議会は王権への制約となっていたことから停止された。  
③王令はこの議会で登録されなければ効力をもたなかったため、議会は王令登録権をたてに王権に対してしばしば抵抗した。  
④14世紀半ば、この議会は高位聖職者と大貴族を代表する上院と、州と都市を代表する下院とにわかれ、法律の制定や新課税には下院の承認が必要になった。

[設問50] 下線部(50)に関連して、この混乱を終結させた公会議の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **50** にマークしなさい。

- ①トリエント公会議    ②コンスタンツ公会議    ③カルケドン公会議  
④エフェソス公会議    ⑤ニケーア公会議